

県外派遣報告書

審判員名	小林 恵	所属	ミニバスケット連盟
大会名	第37回関東ミニバスケットボール大会		
期間	平成28年1月9日(土)～11日(月)		
会場	ひたちなか市総合運動公園体育館・水戸市青柳公園市民体育館		
スケジュール			
期 日	内 容	場 所	
1月9日(土)	審判会議	ホテル クリスタルパレス	
1月10日(日)	予選リーグ	水戸市青柳公園市民体育館	
1月11日(月)	決勝リーグ	ひたちなか市総合運動公園体育館	
会議 講義 内容			
<p>講師 茨城県バスケットボール協会審判委員長 稲葉 威 氏 茨城県バスケットボール協会審判副委員長 山田 健一 氏 茨城県バスケットボール協会指導委員長 一色 渉 氏</p> <p>講義 茨城県バスケットボール協会指導委員長 一色 渉 氏</p> <p>【よい判定をするために必要なことは】 ・メカニックの理解 ・判定基準 ・四原則の活用 ・TOとの協力 ○ゲーム中に示すべき判定基準の確立は出来ているか →ルール正しい理解 ○試合の早い段階で判定の基準を示す ・早い段階→そのプレイがゲームで最初に起こった時。「開始5分」などではない。 ・判定基準→そのゲームのスタンダード(厳しく入ることだけでなくゲームに合わせる。質が悪いものはしっかりと判定する。チープな笛は吹かない。)</p> <p>これらを、どちらのチームにも同じように判定すること 「公平・公正・一貫性」</p> <p>【判定の根拠とは】 ・判定の原則は、「シリンダー」と「リーガルガーディング・ポジション」 ・オフェンス、ディフェンスともに同等の権利をもつ</p> <p>・インサイドのプレイや、ブロックショットなど→どちらがふれ合いを求めていっているのか</p> <p>【まとめ】 ・プレイを瞬間で見ても判定できない。どこからプレイの始まりを見ていたか。 →二人の協力・分担・予測 ・判定基準の確立により、ゲームの入りがスムーズになる。→公平・公正、クリーンなゲーム運営</p>			

実技				
担当試合	期 日	1月10日(日)	男子	女子
	対戦カード	ジュニアファイブ VS 明治	主審 副審	
	相手審判	吉田 郁美 氏(茨城)		
ミーティング内容 主任 小林 大輝 氏(茨城)				
<p>一試合を通しての、判定の一貫性を明確に示す必要がある。 どちらの審判が判定し、笛を鳴らすのか。プレイから遠いと、やはり説得力に欠けてしまう。 特に、トレイルでのケースでは、ターンオーバーの多いゲームやリードからトレイルになる場面の切り替えでは、プレイから遠くならないようにすることが必要である。</p>				
担当試合	期 日	1月10日(日)	男子	女子
	対戦カード	真鍋 VS 光華	主審 副審	
	相手審判	相木 康岳 氏(千葉)		
ミーティング内容 主任 宮内 潤 氏(茨城)				
<p>プレイの予測や情報収集が十分ではなかった。ボールマンの1対1がどう展開していくのか、次につながるプレイはどこなのかを、早く捉えなければならない。 突発的に笛が鳴ってしまったものの原因は、やはりプレイを見る位置であった。リードで、早く右に行かなかったためにわからなかったもの、トレイルの位置が高くてそう見えてしまったものなどがあった。 白の選手の手の使い方→青の選手がストレスを感じる→青のひじが出る。手とひじは同等ではない。オフェンスファウルを宣すべきである。</p>				
担当試合	期 日	1月11日(月)	男子	女子
	対戦カード	菅谷東 VS 桐生東	主審 副審	
	相手審判	宮島 美幸 氏(栃木)		
ミーティング内容 主任 飯島 祐紀 氏(茨城)				
<p>第1Qで、まだプレイできると思ったものが、結果的にオフェンスのミスにつながってしまった。プレイを見極められなかったり、決断できなかつたりしたことが、判定のブレにつながってしまう。プレイの始まりから終わりまで、長く見る必要がある。 ベンチの意図やプレイの流れを感じ取り、判定につなげていく必要がある。</p>				
担当試合	期 日	1月11日(月)	男子	女子
	対戦カード	光華 VS 大野	主審 副審	
	相手審判	中島 孝博 氏(群馬)		
ミーティング内容 主任 山田 健一 氏(本部)				
<p>二人で協力し、ゲームを運営できていたとお話をいただいた。その積み重ねがあり、ゲーム終了間際のトラブルへの対応につながっていた。選手が決着をつけることができた。 自分なりにプレイを見て判定をしたが、やはりプレイの理解や、位置取りが不十分である。どちらが仕掛けているのか、その始まりをもっとシビアに見なければいけなかった。シビアなゲームであり、一つのミスがベンチの不満になってしまうため、プレイの意図を感じ取り、より良い位置にいかなければ、判定力は向上しないと感じた。</p>				
全体の感想				
<p>技術のレベルが高く、また緊張感のあるゲームを担当させていただき、非常に勉強になりました。ただ笛を鳴らすことが審判なのではなく、ルールや技術を理解したうえでコートに立ち、ゲームのあらゆることに気を配りながら、ゲームを始め、進め、終わらせることが役割なのだと感じました。また、一色氏による講義の「判定の根拠」を再度見直し、判定につなげていきたいと思いました。 今大会では、山野辺関東ブロック長をはじめ、茨城県の皆様には3日間大変お世話になりました。ありがとうございました。そして、このような貴重な機会を与えてくださった埼玉県の皆様には感謝申し上げます。学んだことを、連盟に伝達し、生かしてまいりたいと思います。</p>				